

仙台箆笥伝産法申請に向けた取り組み

1. 新規指定申出産地組合名

- ・住所：宮城県仙台市青葉区郷六字葛岡下 10-4
- ・組合名：仙台箆笥協同組合
- ・代表理事：湯目 一潔（株式会社湯目家具百貨店 代表取締役）
- ・構成企業数： 9 事業者 ・従事者： 47 名 ・設立：平成 20 年 3 月

2. 「仙台箆笥」の沿革、由来、特徴・売り

「仙台箆笥」の誕生は江戸時代末期だといわれており、仙台藩の地場産業として生まれ、武士たちが刀や羽織を納める身近な生活用具として愛用されていた。当時は野郎箆笥と言われ、櫨と杉を主原料に、上段に刀、右下に金庫が付き、押し入れの下の仕込箆笥であったとされる。

生産のピークは明治から昭和中期で、地元を中心に海外にも輸出されていた。大正以後、国内外に市場が拡大したことに伴い、側（フレーム）も杉から櫨が主流になるなど、室内装飾用として考慮されるようになった。

戦時中は一時生産がストップするが、戦後の生産再開以降、現在も①指物、②漆塗り、③金具の 3 工程全て職人の手仕事で行われている。使用される材料は主に櫨、塗装は漆、金具は鉄と、すべて天然素材を使用しており、温もりや手触り、伝統性を持つ箆笥として、素朴な中にも豪華な金具で装飾された重厚感に満ちた、日本を代表する工芸品のひとつである。

3. 指定希望理由

地域の伝統的な技術や独自の美意識に打ち出された工芸品は、地域の貴重な産業のひとつに位置づけられている。しかしながら、日本の伝統的産業は、この 20～30 年前と比較すると出荷額、従業員数とも 3 分の 1 になってきており、大きく衰退している。

仙台箆笥は、皇室において利用されるなど、一定のブランド力があり一部で高い評価を受けているが、総じて情報発信力が弱く、地元を中心とした認知度も、若年層を中心に低い傾向にある。また、現状においてマーケットが小さく市場拡大を見込むことが困難なため製造・販売に関わる従業者数が減少傾向にあり、技術者問題及び継承問題は年々深刻な状況になってきている。

こうした喫緊の諸課題の解決を図るには、国の指定を受けて、明確な振興戦略ビジョンに基づく産地組織・体制などの拡充強化に努め、人材育成や販路開拓等の様々な支援施策も有効に活用しながら、後継者の確保・育成、技術・技法の継承、国内外への一層の普及・啓蒙に取り組む必要がある。加えて、伝産品の指定を受ける品質基準を明確にし、品質、製造過程の統一化を図ることで、消費者ニーズに応えた品質と価格のバランス、真の価値

を保証する必要もあると考えている。

東日本大震災後、被災住民を中心に古い仙台箆笥の修理が殺到するなど、地域の生活文化の上で重要な役割を果たしてきており、その価値や魅力が世代を超え受け継がれていることが改めて証明された。一方では、これまで観光やお土産等、地域経済を支えてきた産地製造・販売事業者（ほとんどが小規模事業者）の多くが震災で甚大な被害を受け、風評被害等もあっていまだに苦しんでいる状況にある。このことから、伝統ある仙台箆笥の技術・技法を途絶えさせず、地域にとって欠かせない産業である仙台箆笥の復興、そのためのきっかけともなる国の指定は、被災地域を支える産業の復興という側面からも極めて大きな意義を持つものと考えている。

4. 原材料、生産、加工工程

- ・材料はすべて天然のものを使用しており、樺・栗・杉・桐の無垢材、塗装は漆、金具は鉄、鉄の防錆着色もすべて絹や毛などの動物性たんぱく質・漆を用いる。まったくの手工芸製品であり、道具さえも職人が自製している。

- ・塗装は木地呂塗という漆塗装面を鏡面に仕上げる樺の木目を活かした産地特有の技術である。漆を塗っては炭のかけらで研ぎ出し、また漆を塗って研ぐという工程を何回となく繰り返す。

- ・金具は主に鉄であるが、他に真鍮、銅等もある。これに鑿で文様の線の一つ一つを彫りつける打ち出しによる手作業で作られる。

6. 新規指定申請書にかかる（伝産法第2条）指定要件との関連

① 主として日常生活の用に供されるものである。

仙台箆笥は、日常に衣服の収納に使用されるほか、大切なものをしまうために使われている。

江戸時代の武士の刀、金庫、袴などを収納する野郎箆笥と通称され、押し入れの下部に設置されていたが、明治時代中期から嫁入り箆笥として、型やデザインも多岐にわたるようになり、大正時代には大きな鏡を付けた西洋風なデザインも出て輸出された。現在では、インテリアとして和室、洋室にこだわらず、玄関等に配置されることも多くなった。

② その製造過程の主要部分が手工芸的である。

製造過程においては、木地、金具、塗りと分業従弟制度で手工芸的であった。

③ 伝統的な技術又は技法により製造されるものである。

仙台箆笥製作従業者は、戦前においては徒弟制度で育成してきた。

現在は就業環境も変わり、後継者不足は否めない。仙台箆笥協同組合は後継者育成と若者が仕事を習得する場を提供するための共同工房を設置し、技術を伝承していきたいと思っている。また、仙台箆笥の従来デザインにとらわれることなく、小

型な箆笥や技法をいかした製品づくりなど現代生活に適合した商品開発などを実施していきたい。そして、国内はもとより海外へも進出していきたいと考えている。

- ④ 伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されているものである。

特に仙台藩において、堅牢で重厚な独特の鉄の金具、櫓などの堅い無垢材を使用し本漆塗装により仕上げられる。

- ⑤ 一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又は製造に従事しているものである。

- ⑥ ①から⑤の他に（イ）、（ロ）に掲げる事項に該当するものである。

（イ） 当該工芸品が真に国民の欲求に合致し、国民生活に豊かと潤いをあたえるものである。

東日本大震災後、改めて地域の絆を実感した。これから復興に向けて新しく家を建てる地域住民から仙台箆笥の注文依頼があり、特に沿岸部は昔から仙台箆笥の所有率が高かったこともあるが、仙台箆笥の地元意識は今だに健在であり、地域産業の活性化に役立つことは言うまでもない。